

いきいき 衍田人

健康な毎日

大好きな農作業から

志保澤かねさん（南河原・94歳）

大正4年に生まれ、4人兄弟の長女として体の弱い母親の看病をしながら、子供のころから田んぼを手伝っていた志保澤さん。農家に嫁いでも暑さ寒さの厳しさに耐え、ただひたすらに農作業をこなし、94歳になった現在でも農繁期の人手不足を支える一員として精を出しています。

今日は何から始めようかと考えながら毎朝午前5時半に起床し、まずはほうきとモップで家中を掃除するのが日課となっています。その後雨が降っていない庭に出て、植木の水やりや草取りなど、午前7時の朝ごはんまで体を動かしながら、食後も仕事を見つけては外で作業しています。そんな志保澤さんが雨の日や農作業の合間を見つけて取り組んでいるのが新聞広告を使った折り紙細工。完成図を思い描きながら



黙々と制作に励み、出来上がった作品は親せきや近所の人たちにプレゼントし、喜ばれているそうです。

小さなころから農業に親しみ、田植えや稲刈りも家族の先頭に立ってやってきた志保澤さん。「90歳になったころから力も弱くなって、いろいろなことができなくなっていました」と話す一方で、鋤で自宅前の畑を耕したり、農作業をしてくる家族のためのお昼ごはんを用意したりと、まだまだ活動意欲が減ることはないようです。それを証明するように、田植えの準備として先月に家族総出で行った苗箱への土入れと種まきにも進んで参加し、1千600枚もの苗箱に土を入れる作業を行ったそうです。「疲れたら休んでいいんだよ」と声をかける家族の心配をよそに、楽しそうにいきいきと作業をする志保澤さんは、まだまだ若い人には負けない気力と体力の持ち主です。

ここ5年間は風邪をひいて医者にかかったこともなく、定期健診などへ行っても「異常なし」と太鼓判を押されるほど丈夫な体でいられるのは家族のおかげであり、健康に毎日を過ごす心得は「人のため、家族のために一生懸命働くこと」だと話してくれた志保澤さん。「今度はラジオ体操に挑戦してみようかな」と、多忙な毎日にもまたひとつ日課が加わりそうです。

私の作品

俳句

忍 伊藤 英子
城やぐら装裾を飾る夕桜

向町 佐藤 猶子
一本で全景となる滝桜

佐間 藤田 素仙
グランドに美と和告げる春の風

中央 藤野 芳江
恥らひにかたくりの花俯けり

荒木 秋山 二郎
啓蟄や老いし吾が身もうずき出す

荒木 小林 康男
妻の留守ひとり酌みけり春満月

須加 須加かつ江
花冷えに犬も背中を丸くして

須加 原 智郁子
姿なき鶯の声山の宿

埼玉 小菅 春童
県道に分けらる桜の古墳群

南河原 若林 水翁
春つらら釣師あやつる点と線

◎皆さんの作品を募集しています。
◎俳句は毎月5日まではがき・封書で広報広聴課へご応募ください。

下忍 島崎 もと
ゆるゆると淀みつ解る花筏

清水町 松岡 博
節目にはいつも花あり五十年

前谷 石井マサ子
七十路の間近にありてかすみ草

荒木 蛭間しげ子
亡き夫の眼鏡ですます春の夜

荒木 藤田 栄之
風の国上州千の鯉職

（木島 斗川 監修）



『天使の庭』（押し花）

小菅倫子（埼玉）